

島根原発3号機

稼働必要性「議論は不要」

松江市長「今後は安全かどうか」

中国電力が原子力規制委員会に新規制基準適合性審査を申請する島根原発3号機(松江市鹿島町片包)に

関し、松江市の松浦正敬市長は8日の定例会見で、今後は稼働を前提とした安全

性の確認に議論が集約されるとし、新規稼働の必要性をめぐり議論は不要との認識を示した。

原発から30キロ圏内の周辺自治体の首長や、松江市を含む関係自治体の議会、住民説明会では、供給準備率に余裕があることに加え、

他電源よりも発電コストが安く、山陽側で老朽化する火力発電所の代替電源にしたいとする中電の主張に対して根拠が曖昧との批判が相次いでおり、反発を招きそう。

松浦市長は政府が原発を重要なベースロード電源と位置付けていることを念頭に、改めて「原発の必要性は依然としてあるとの考え方を持っている」と強調。その上で「(今後は)必要性とかの議論ではなく、稼働するとすれば安全かどうか

の議論に収れんしていくのではないかと。原発は必要ないんだという議論を持ち込むと、話の蒸し返しになる」

との見解を明らかにした。
また、審査に合格すれば基本的に稼働を容認する姿勢を重ねて示す一方、最終的な可否判断は安全かどうかに加え、事故時の広域避難計画の実効性や運転時の人的ミスを防ぐ体制の確立などを見極める必要があるとし、「総合的に勘案しながら判断する」と述べた。

(井上誉文)